

第3期中期目標・中期計画における臨床研究総括報告書

診療科（部）名： 顎口腔機能治療部

主な臨床研究課題

- (1) 歯科における在宅嚥下障害患者のポリファーマシー対策の確立
- (2) 高齢者における嗅覚機能と食欲・栄養状態の関連性について
- (3)

上記臨床研究の成果（発表済の論文がある場合はその論文を付記してください）

(1) 嚥下障害を主訴とする在宅・在施設の高齢者106名を対象とし、診療録をもとにして、有する疾患、服用薬剤数、服用薬剤の種類を調べた。ポリファーマシーの目安とされる5剤以上服用している患者が68.9%存在し、在宅・在施設の嚥下障害高齢者はポリファーマシーになっていることが明らかとなった。嚥下障害や誤嚥の原因になりうる薬剤も多く処方されており、嚥下の視点から歯科がポリファーマシーに取り組む意義があることが示された。

(2) 高齢者の嗅覚機能の低下について健常成人との比較を行い、また高齢者の中でも要介護高齢者の嗅覚機能の低下について非要介護高齢者と比較した。さらに、要介護高齢者においては、嗅覚機能が食欲・栄養状態に与える影響を検討した。その結果、高齢者の嗅覚機能は健常成人と比較して低かった。また、要介護高齢者の嗅覚機能は加齢や認知機能低下に関連して低くなっているものの、食欲と栄養状態には関連しない可能性が示唆された。

(3)

第4期に向けての計画・展望

(1) (2)の研究とも、調査対象者を増やし、背景疾患ごとの傾向を明らかにする予定である。その結果、疾患ごとのポリファーマシーの影響、食欲に対する嗅覚の影響が明らかになると期待される。